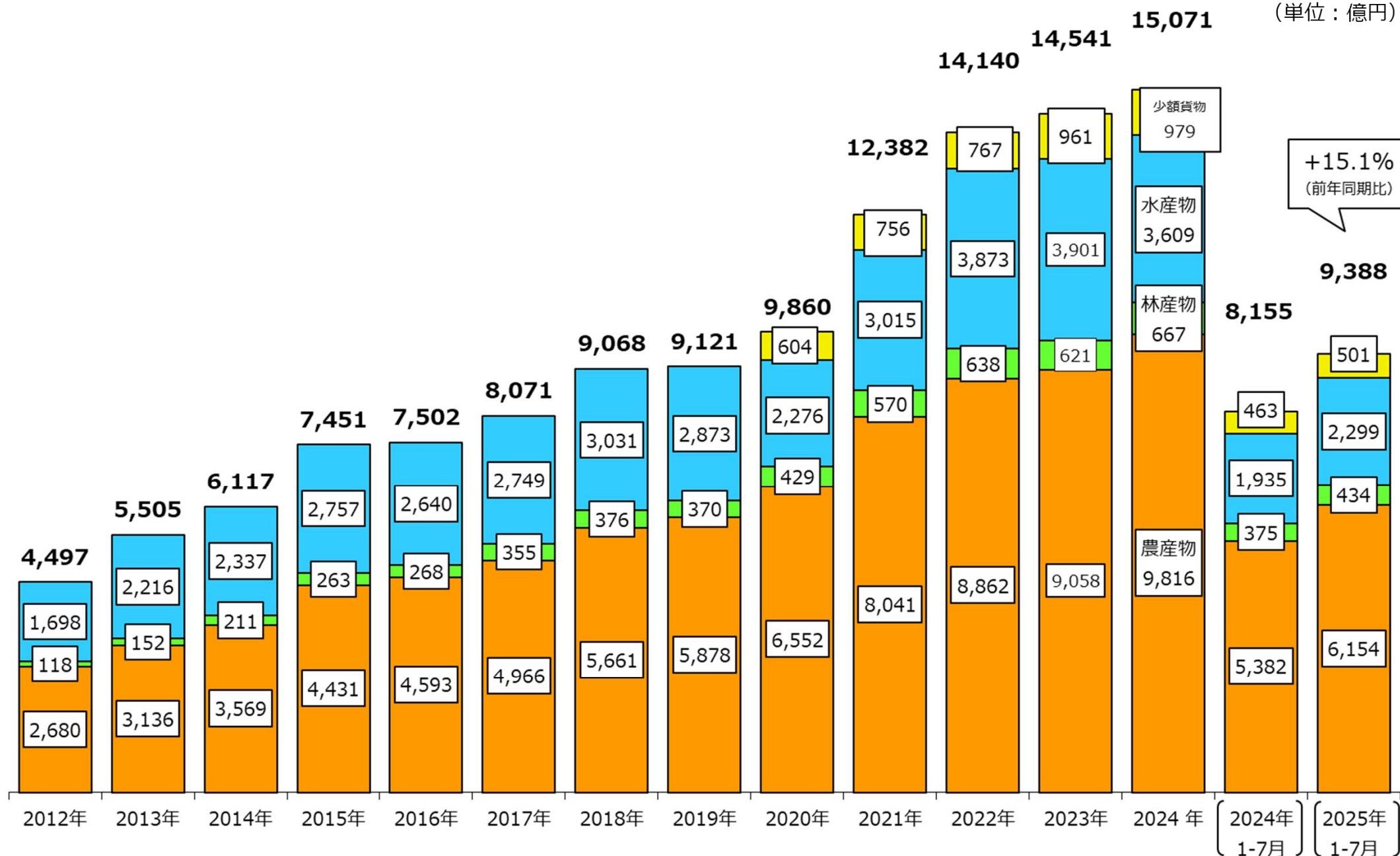


農林水産物・食品 輸出額の推移

(単位：億円)



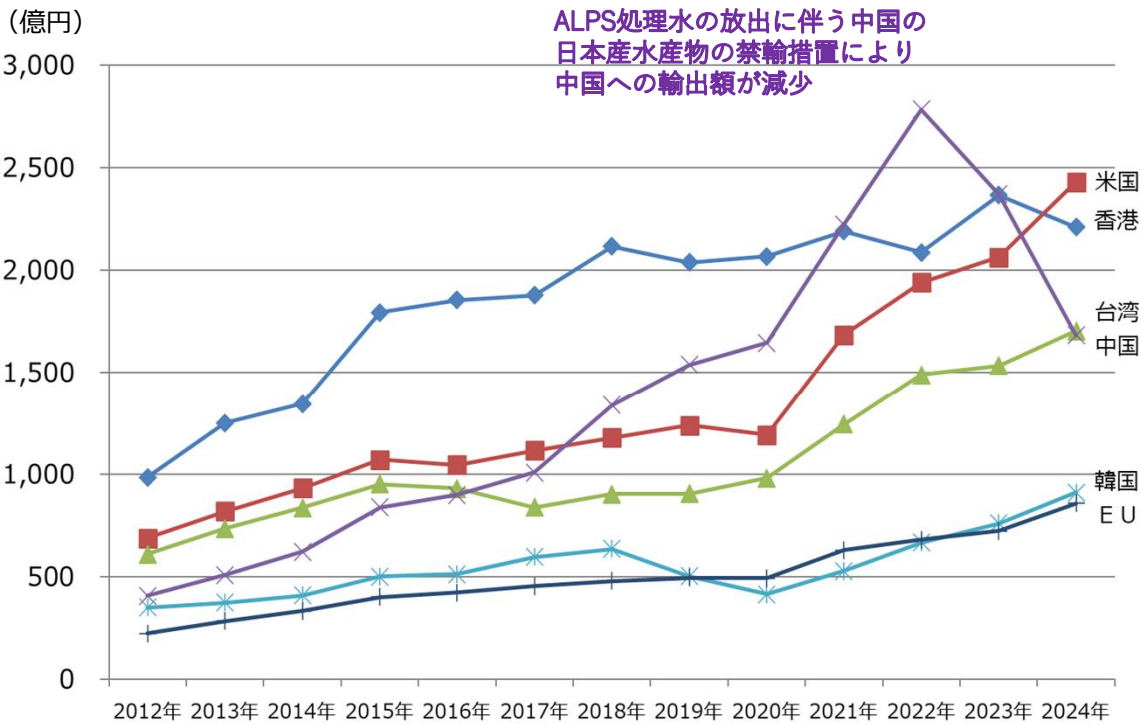
国・地域別、農林水産物・食品の輸出額

- 国・地域別でみると、**米国、香港、台湾**への輸出が4割強のシェア。
- 今後これらの国・地域以外のアジア、所得の高い北米や欧州諸国等にも輸出を拡大できる可能性。

上位10カ国輸出先国・地域別内訳（2024年）

順位	2024年1-12月（累計）						
	輸出先	輸出額 （億円）	金額 構成比 （%）	前年 同期比 （%）	輸出額内訳（億円）		
					農産物	林産物	水産物
1	アメリカ合衆国	2,429	17.2	+17.8	1,614	74	741
2	香港	2,210	15.7	▲ 6.6	1,311	16	883
3	台湾	1,703	12.1	+11.1	1,309	43	351
4	中華人民共和国	1,681	11.9	▲ 29.1	1,293	326	61
5	大韓民国	911	6.5	+19.8	592	39	280
6	ベトナム	862	6.1	+23.7	516	7	339
7	タイ	628	4.5	+22.9	306	10	312
8	シンガポール	557	4.0	+1.7	461	6	89
9	オーストラリア	328	2.3	+5.6	290	3	35
10	フィリピン	287	2.0	▲ 6.0	159	95	33
-	E U	858	6.1	+18.5	735	21	102

輸出先国・地域別輸出額の推移



農林水産物・食品輸出プロジェクト（GFP）の取組

- GFP（ジー・エフ・ピー）は、Global Farmers / Fishermen / Foresters / Food Manufacturers Projectの略称。農林水産省が推進する**日本の農林水産物・食品の輸出プロジェクト**。
- 平成30年8月31日に農林水産物・食品の輸出を意欲的に取り組もうとする生産者・事業者等のサポートと連携を図る「**GFPコミュニティサイト**」を立ち上げ。
- 当該サイトに登録した者を対象に、農林水産省がジェトロ、輸出の専門家とともに輸出の可能性を無料で診断する「**輸出診断**」を平成30年10月から開始。



GFP登録者へのサービス提供

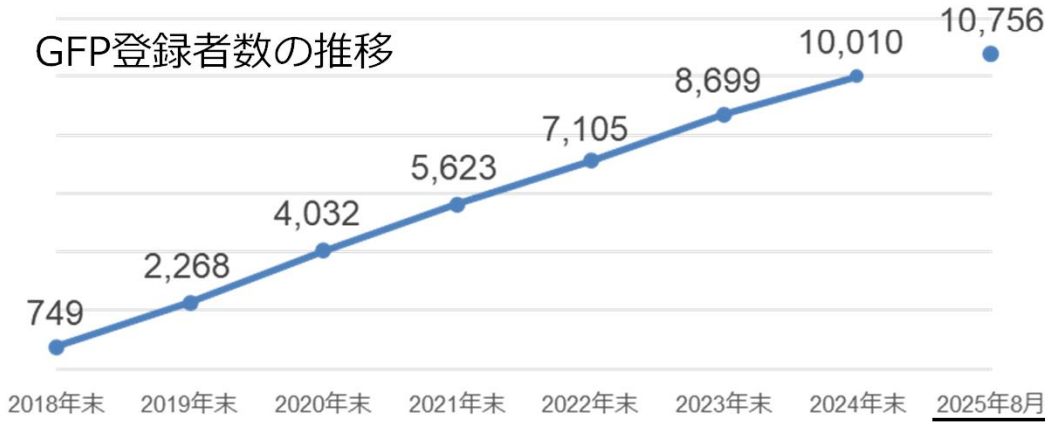
- 農林漁業者・食品事業者へのサービス
 - ・専門家による無料の輸出診断
 - ・GFPコミュニティサイトで事業者同士が直接マッチング
 - ・GFPビジネスパートナーの紹介等による支援
 - ・輸出のための産地づくりの計画策定の支援
 - ・メンバー同士の交流イベントの参加
 - ・規制情報等の輸出に関連する情報の提供
 - ・セミナー等を通じたGFP登録者の優良事例の共有
 - ・過去のセミナー動画のアーカイブ化による輸出ノウハウの提供
- 輸出商社・バイヤー・物流企業へのサービス
 - ・GFPコミュニティサイトで事業者同士が直接マッチング
 - ・GFPビジネスパートナーの紹介等による支援
 - ・メンバー同士の交流イベントの参加
 - ・規制情報等の輸出に関連する情報の提供
 - ・セミナー等を通じたGFP登録者の優良事例の共有
 - ・過去のセミナー動画のアーカイブ化による輸出ノウハウの提供

GFPの登録状況（8月末時点）

GFP登録者の内訳

区分	登録者数
農林水産物食品事業者	5,967
流通事業者、物流事業者	4,789
合計	10,756

GFP登録者数の推移



中国四国地域におけるGFP登録状況

- ✓ 中国四国地域におけるGFP登録数（令和7年8月末現在）は893事業者（中国495、四国398）。
- ✓ このうち訪問診断を申し込んだ登録事業者に対する訪問診断は、令和7年8月末までに88事業者（中国57、四国31）に対し実施。

【GFPの登録状況（令和7年8月末現在）】

			登録数 (比率)
登録事業者			893
農林水産物 食品事業者			652 (73%)
	うち、輸出診断 申込み数		205 (23%)
	うち、訪問診断 申込み数		91 (10%)
流通事業者、物流事業者等			241 (27%)

【輸出診断の概要】

- ・ 事業者のレベルに応じたアドバイス。
 - 「何を、どこに、誰に」売るかを明確にすべき。
 - まずは商談会に参加すべき。
 - 支援策や課題の問い合わせ先を紹介。
 - 検疫や商談会の情報を提供。

【訪問診断事業者内訳（令和7年8月末現在）】

品目	訪問 事業者数	輸出取組の有無	
		有	無
農産物／ 農産物加工食品	42	11	31
畜産物／ 畜産物加工食品	5	4	1
水産物／ 水産物加工食品	21	9	12
その他加工食品	14	9	5
酒類	6	5	1
合計	88	38	50

【事業者の声】

- ・ 各種支援策や検疫、商談会等の情報が得られてよかった。
- ・ 農水省、JETRO、県との課題共有は収穫。
- ・ 行政、植物検疫協会等との人的つながりができてよかった。
- ・ 人脈を広げて事業者間で情報を得たいので、GFPコミュニティの取組に期待する。

あなたを、 生産者の 日本代表にしたい。



1億人ではなく、
100億人を見据えた
農林水産業へ。

四季の豊かなこの国で、だれかを喜ばせたい一心で取り組む生産者のみなさんへ。
海外各国からのニーズが大きくなっている今、みなさんと輸出の成功事例をつくっていきたい。
このコミュニティにぜひ参加して第一歩を踏み出しませんか。農林水産省が全力でサポートします。



こんな方に最適です！

- 輸出をしたいけど、どうしたらいいかわからない！
- ビジネスパートナーを探したい！
- 輸出に関わる情報を効率よく入手したい！

GFPを通じた成約事例も続々と出ています！

登録
無料

参加を希望する方はまずはメンバー登録を。

WEB : <http://www.gfp1.maff.go.jp>

問い合わせ先：農林水産省 GFP事務局 Mail : gfp@maff.go.jp



農林水産省

1 GFPコミュニティとは？



- 輸出は、国内出荷と異なり、様々な手続き・規制・言語のハードルや独特の商流が存在し、個々のプレーヤーでは継続的な成果を出すのが困難です。
- こうした課題を乗り越えるため、個々のプレーヤーがビジネスパートナーを見つけ、商談への橋渡しを行うサイトを構築します。
- 併せて、これらのコミュニティでの取組みに対して、行政・JETRO等によるワンストップの支援を提供します。

2 GFP登録事業者

農林水産物・食品の輸出に意欲的に取り組もうとする事業者(生産者、食品加工メーカー、商社、物流企業、金融機関など)

3 サービス詳細

- 輸出診断・訪問診断**
農林水産省がJETRO、輸出の専門家とともに、生産現場等に直接出向いて「輸出の可能性」を無料で診断します。
- 訪問診断実施者フォローアップ**
各登録者の課題解消に向けて、GFPビジネスパートナーマッチング・テスト輸出等を通じてサポートします。
- GFPコミュニティサイト**
各登録者は、商品やサービスのマイページでの発信やオンライン商談、気になる事業者への直接コンタクトなどができます。
- 交流会の開催**
テーマ別(各地域・品目・業種等)のイベントを開催し、様々な事業者間交流・きっかけづくりを創出します。
- 情報発信**
現地情報、補助事業、優良事例などをセミナーの開催で発信します。また、会員限定メールの配信、FacebookでGFP関連の情報発信等を随時行っております。

- グローバル産地づくり推進事業**
輸出先国のニーズと規制等に対応し、積極的に戦略を持って輸出への取組を行う産地形成を支援する事業です。

4 GFPの活用事例

- 生産者 丸山 桂佑 様**
● GFPセミナー登壇をきっかけに自社の認知度の向上、GFPマッチングによる輸出商社・現地バイヤーとの連携・販促活動ができました。
● GFPインターンシップの学生を受け入れ、新規就農者・若手への支援に取り込んでいます。
 - 生産者 大吉 枝美 様**
● GFP訪問診断・セミナーの参加を通じて、輸出に関して漠然としたイメージしか持っていなかった状態から、1年以内に輸出を実現しました。
● 今後も鮮度が良く・品質の高いキャベツ生産に励んでいきます。
 - 商社 後藤 大輔 様**
● GFPビジネスパートナーマッチングによって、取引要望に沿った事業者と効率的かつスピーディーな成約を実現しました。
● GFPイベント等に積極的に参加することで販路・出先の違う商社と横の繋がりを構築できました。
- GFPサービスの活用方法とその効果の詳細は「GFP登録者の優良事例」をご覧ください。


フラッグシップ輸出産地について

- 「フラッグシップ輸出産地」とは、海外の規制やニーズに対応して継続的に農林水産物の輸出に取り組み、輸出取組の手本となる産地として農林水産大臣が認定する制度が令和6年度に創設され、令和6（2024）年7月に第1回、12月に第2回認定が行われた。
- 中国四国農政局管内では、第1回に5産地、第2回に8産地が認定された（1品目につき1産地とカウント）。
- 当局の認定産地の特徴として、他局では認定実績のない盆栽の栽培産地が2産地（高松盆栽輸出振興会、赤石五葉松輸出振興組合）認定されている。



<認定証授与式の様子>

徳島阿波尾鶏ブランド
確立対策協議会



(株) 農家ソムリエーズ



高松盆栽輸出振興会



赤石五葉松輸出振興組合



えひめ愛フード推進機構



大山乳業農業協同組合

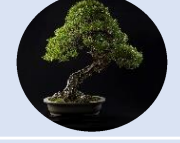


全農おかやま県本部
(JA岡山、JA晴れの国岡山)



第1回認定産地

第2回認定産地

県名	認定産地（申請者名）	品目	県名	認定産地（申請者名）	品目
徳島	徳島阿波尾鶏ブランド確立対策協議会 (輸出食鳥処理場認定を受け、香港、ベトナム等向け輸出に注力)	鶏肉 	鳥取	大山乳業農業協同組合 (特殊パックで賞味期限延長した「白バラ牛乳」のチルド牛乳を香港向けに輸出)	牛乳 乳製品 
	株式会社農家ソムリエーズ (ニーズに合った規格品の安定的なロット確保を実現しカナダ向け輸出を強化)	かんしょ 	岡山	全国農業協同組合連合会岡山県本部 (JA岡山、JA晴れの国岡山) (主に台湾、香港向けに輸出。高い品質は現地でも高評価)	もも、 ぶどう 
香川	高松盆栽輸出振興会 (各国の輸出条件に対応した防除暦を作成。技術の普及や輸出後の品質維持に繋げる)	盆栽 	愛媛	愛育フィッシュ輸出促進共同企業体 (県産養殖魚「愛育フィッシュ」のプロモーションを現地商談会等で積極的に実施)	ぶり、たい シマアジ 
愛媛・ 香川	赤石五葉松輸出振興組合 (EUの規制に対応した栽培管理体制を整備。スペイン、オランダ向けに直接輸出)	盆栽 		愛南漁業協同組合 (水産エコラベルを取得。米国で好まれる無投薬による生産拡大を働きかけている)	たい 
愛媛	えひめ愛フード推進機構 (販売促進と、検疫条件や残留農薬基準等の規制を克服する課題解決の両面から取組)	かんきつ 		辻水産株式会社 (対米HACCP認証取得。FDA、中国、台湾等の施設登録を行い各国の規制に対応)	クロマグロ 

令和6年度輸出に取り組む優良事業者表彰（輸出・国際局長賞）



石丸製麺株式会社
(香川県高松市)

・うどん
(讃岐うどん)



「さめきの夢」国産原料の讃岐うどんを世界へ展開

取り組み内容

- 昭和59年には、我が国初の手打ち式乾麺の商品化を成功。**国内産小麦粉（特にさめきの夢）の使用比率を高め、「メイド・イン・ジャパン」の高付加価値商品**であることをアピール。
- 2002年より**日系スーパーを中心に台湾・香港・中国など海外販売を開始**。その後、台湾・中国・韓国コストコ向けに直接販売を展開するとともに、キャセイパシフィック航空のビジネス機内食として「茶うどん」が採用されるなど海外の販路開拓を精力的に推進。
- **インド向け専用商品の開発や長期保管可能な半生麺の開発**にも取り組む。
- 令和6年3月に海外営業部を新設。海外販路開拓に向けた体制を強化。



▲ 石丸製麺本社とさめきの夢圃場（圃場は第三者所有） ▲ 海外向け出荷準備



コストコでは、
梱包材のまま陳列 ▼



インド市場では、乾麺を使用
した現地風にアレンジした料理
の写真（Yaki Udon）を
パッケージに使用 ▼



高知県水産物輸出促進協議会

「オール高知で養殖魚等をアジアへ輸出」

2024
中国四国農政
局長賞

＜事業者の概要＞

1. 所在地：高知県宿毛市小筑紫町田ノ浦1337番地2
2. 代表者：会長 浦尻 和伸（事務局：すくも湾漁業協同組合）
3. 主な品目：養殖魚、天然魚、水産加工品
4. 主な輸出先国・地域：中国、ベトナム、香港など
5. 事業概要：県内加工の養殖魚をはじめとする水産物の海外販路を開拓することで産地加工のさらなる拡大に繋げ、県水産業の振興を図ることを目的として2019年4月に本協議会を設立(会員：28者(2024年10月末現在))。



ベトナムの見本市へ出展



インドでの賞味会

【輸出の取組内容】

- 本協議会は水産物・水産加工品の輸出拡大に向けて、生産から流通・販売までの各段階の事業者を会員として「オール高知」で海外販路の開拓に取り組んでおり、養殖クロマグロ、養殖マダイ、天然魚の水産物、水産加工品を国内外の商社等と連携しながら輸出している。
- 2017年度から2023年度にかけて国や県の支援を受け、輸出に対応した水産物加工施設を5件整備し、輸出拡大に向けた産地加工体制を強化。この結果、協議会設立以前の2015年は3千万円であった本県全体の水産物・水産加工品輸出額は、2023年は5億円を上回った。
- 輸出に向けた産地体制の強化や国内外の商社等と連携した販路の開拓等に繋げるため、国内外の商社等の産地招へいに取り組んでいる。

【取組経緯】

- すくも湾漁業協同組合が中心となり、漁業協同組合、水産加工事業者、仲買人、流通販売事業者、物流事業者、国内輸出商社の20者で組織する「高知県養殖魚輸出促進協議会」を2016年3月に設立。2019年4月、アジア圏で好評の天然魚を事業目的に含めた「高知県水産物輸出促進協議会」に改称した。

【課題と対応方法】

- 新たな海外販路の開拓
→ ALPS処理水の海洋放出に伴う中国による日本産水産物の輸入禁止措置に伴い中国への輸出が停止する中、他国への販路開拓に重点的に取り組んでいる。2024年2月にはインドで市場調査を実施したのち、現地シェフを産地招へいし、7月にはインドでの賞味会開催に繋がった。
- 現地ニーズを捉えた商品
→ 2023年度より、高知県貿易協会の水産物輸出促進コーディネーターと連携し、マーケットニーズに対応した商品づくりや海外販路の開拓をさらに強化。

【今後の事業展開】

- ✓ 本協議会の強みを生かし、国内外商社の産地招へいや国際見本市への出展や賞味会の開催等、生産から加工販売まで「オール高知」で取組を進めていくことで、世界での高知県ファンを増やし、新たな取引の開始・拡大に繋げていく。

【実績】

輸出額（千円）		輸出国・地域上位 2023年	
2021年	307,549	1	中国
2022年	265,172	2	ベトナム
2023年	522,864	3	香港
		4	米国

※高知県全体の水産物・水産加工品輸出額及び輸出国上位



大規模輸出産地モデル形成支援事業採択地区一覧（R7当初）

（岡山県）

岡山県果実生産出荷安定協議会（ぶどう、桃）

<全国農業協同組合連合会岡山県本部等が参画>

- ▶ タイ輸出向けの選果施設の体制整備に向けた検討
- ▶ 長期安定供給や選定品種の販路拡大を目的とした輸出試験及び品質等の調査

岡山備中ブドウ輸出産地育成協議会（ぶどう、ぶどう加工品）

<濱農産、中島農園、備中美味しいブドウ研究会等が参画>

- ▶ 長期輸送リスク及び低コスト栽培（露地・無袋栽培）に対応可能な品種の検討
- ▶ 輸送コストの低減及び輸送時間短縮のため、地元空港を活用した輸出ルート確立

（徳島県）

徳島いちご輸出産地形成協議会（いちご）

<ヴェリタス（株）及び生産者、（株）世界市場、Nippon ICHIBA Taiwan Company Ltd.、徳島県等が参画>

- ▶ 農薬使用量削減のため、IPM防除の推進
- ▶ JGAP/ASIAGAPの取得
- ▶ 最適な予冷環境のため、予冷と植物検疫対策に適した収穫資材の導入

おかやま白桃輸出促進協議会（岡山白桃及び岡山白桃の加工品）

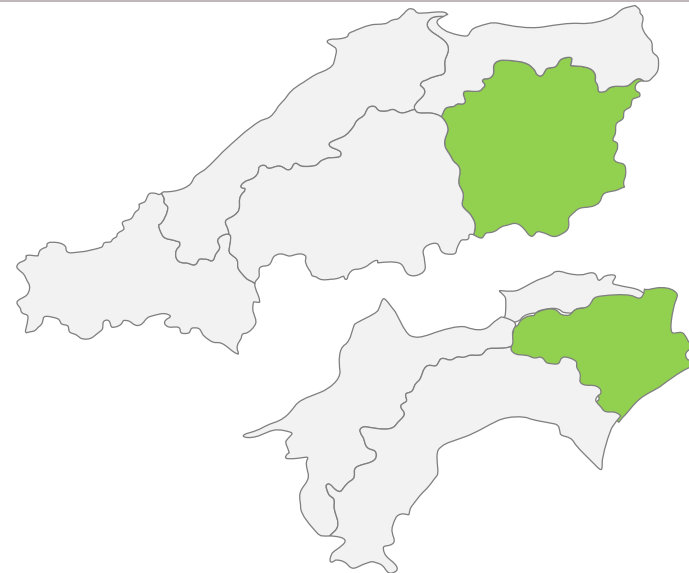
<A TRA-DE株式会社、MOMONAPeach Farm他生産者9名、おかやまおひさまファーム株式会社、株式会社誠和、佐川急便株式会社が参画>

- ▶ Y字型栽培の導入による生産力向上及び省力化の両立
- ▶ 運送会社による効率的な国内輸送、海外輸送ルートを検討

総社市ぶどうスマート輸出促進協議会（ぶどう）

<A TRA-DE株式会社、総社市、秦果樹生産出荷組合、JA晴れの国岡山、株式会社誠和、佐川急便株式会社が参画>

- ▶ 【実証：岡山県】
 - ・スマート農業技術を導入したデータに基づく栽培管理を実施
 - ・長距離・長期間の輸送を可能とするため、ぶどう専用コンテナ及び鮮度保持袋を活用





GFP大規模輸出産地生産基盤強化プロジェクト採択地区一覧（R6補正）

（愛媛県）

愛南の真鯛輸出拡大連携協議会（養殖マダイ）

＜愛南漁業協同組合、愛南漁協魚類養殖協議会、
有限会社ハマスイ 等が参画＞

- ▶ 国際水産エコラベル認証取得・管理円滑化のためのフォーマットを整備
- ▶ 加工機能強化に向けた調査・検討等を実施

えひめ愛フード推進機構（河内晩柑）

＜愛媛県、愛南町、JAえひめ南等が参画＞

- ▶ 緊急防除における散布時期や代替農薬等を検討
- ▶ 販路開拓・拡大に向けた現地での営業活動を実施

愛媛かんきつ輸出促進協議会（かんきつ・加工品）

＜愛媛県農林水産部、遠赤青汁、西南セイフティグループ等が参画＞

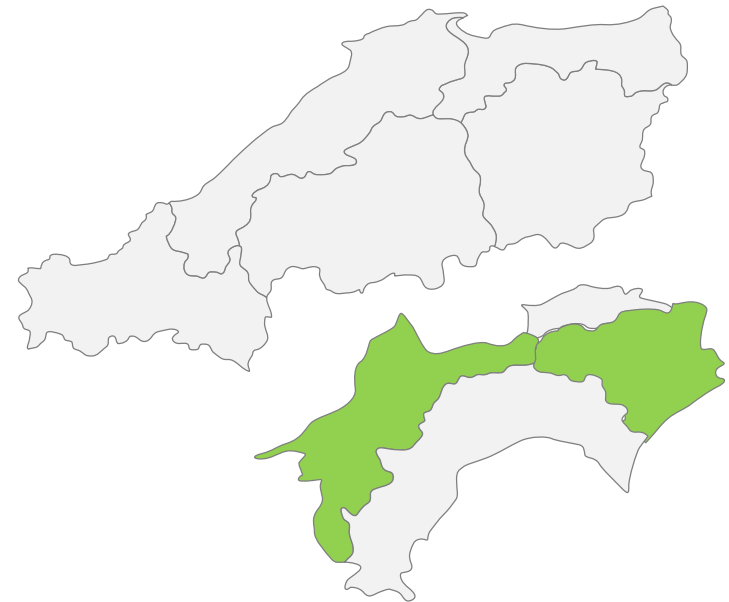
- ▶ 耕作放棄地や再生畑を活用した有機かんきつの面積拡大
- ▶ 生果・加工品の品質統一のための基準を整備
- ▶ 有機かんきつ加工品を主力としたプロモーションによる海外販路開拓を実施

（徳島県）

なると金時北米輸出拡大協議会（かんしょ）

＜農家ソムリエーズ及び契約生産者、徳島県、育川合同会社、
（公社）徳島県産業国際化支援機構（略称：IGAT）等が参画＞

- ▶ 有機JAS転換圃場にて、苗・栽培方法（施肥・防除）・作付け方法を一括管理。
- ▶ データロガーを活用し、品質変化を最小限に留める仕組みの確立



輸出事業計画

輸出事業計画とは

- 農林水産物及び食品の輸出の促進に関する法律（令和元年法律第57号）
（輸出事業計画の認定）

第34条

我が国で生産された農林水産物又は食品の輸出のための取組を行う者は、単独で又は共同して、**農林水産物又は食品の輸出の拡大を図るためこれらの生産、製造、加工又は流通の合理化、高度化その他の改善を図る事業に関する計画を作成し、農林水産省令で定めるところにより、これを農林水産大臣に提出して、その認定を受けることができる。**

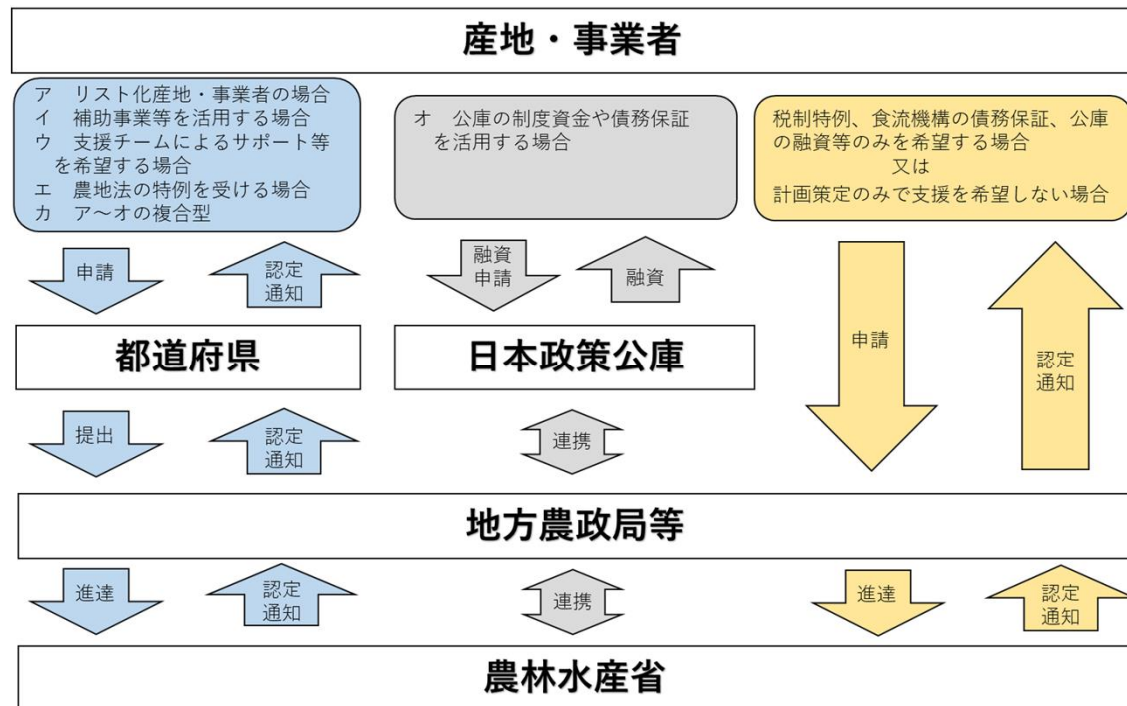
申請者の要件

- 輸出事業計画に基づく事業を的確に実施できる能力を有する個人、団体（輸出に取り組む意欲のある者であれば申請可能）
- GFP登録者であること

計画策定のポイント

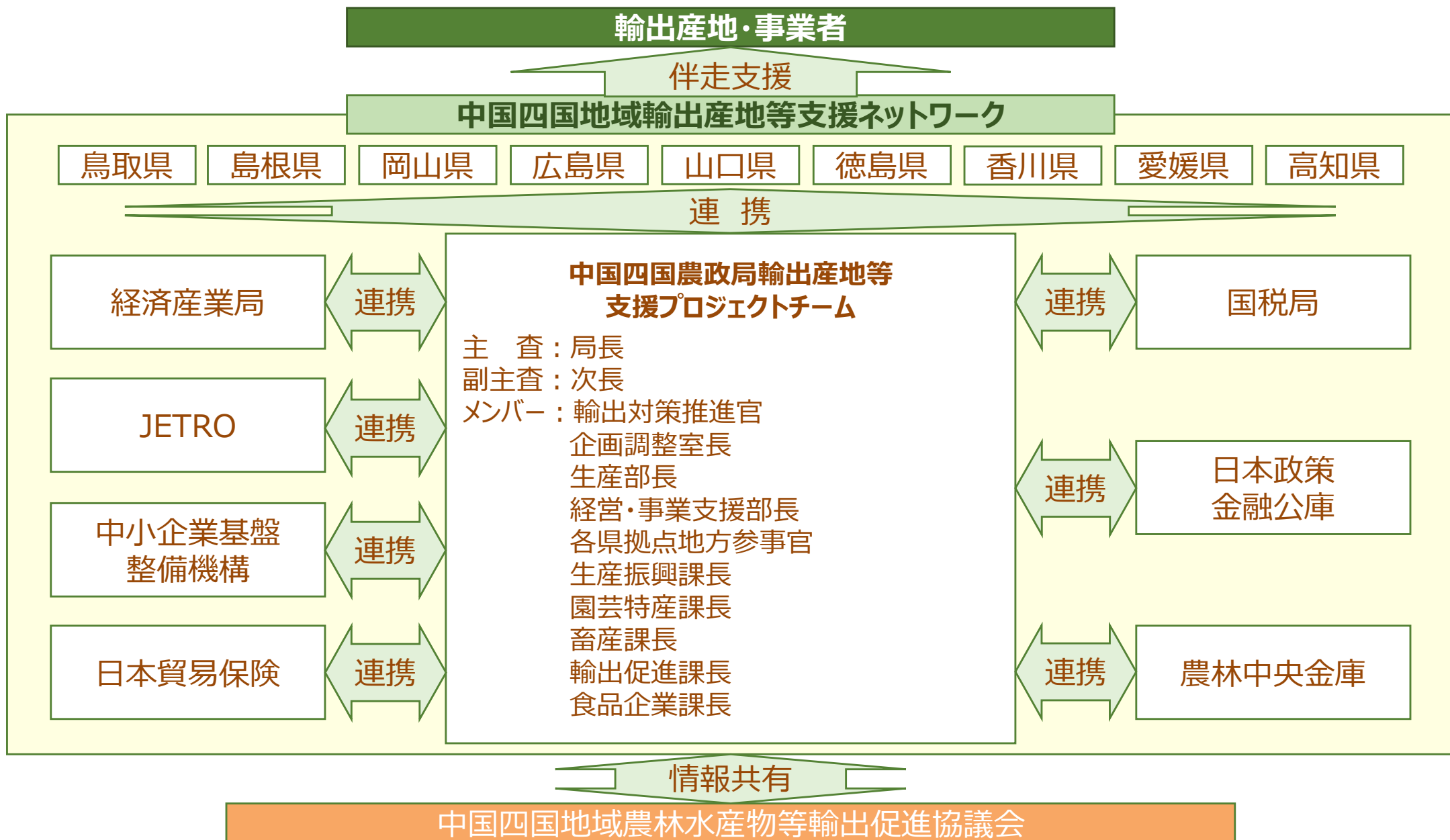
- **ターゲットとする輸出先国のニーズ**を具体的に把握すること
- **輸出に対応するための課題と取組**が明確な内容となっていること
- **目標年における輸出額の設定**が現在の商流と新たな商流の関係から適切な設定となっていること
- 輸出事業計画の策定、計画策定後の実証や策定した計画の見直しを行うため、輸出事業に関する知見を有する者と連携して、**PDCAサイクルを回せる体制**が整備されていること

申請手順



(参考) 輸出産地・事業者の支援体制

- 輸出産地・事業者が輸出事業計画を策定・実行するにあたり、産地等に関係機関と連携した伴走型の支援を行うため、令和4年2月10日に中国四国地域輸出産地等支援ネットワークを設立。令和5年3月1日に体制を強化。



輸出事業計画の策定状況

令和7年8月末日時点

中国地方

山口県（5事業者）

事業者名	品目	輸出先国
株式会社シマヤ	だしの素・粉末うどんスープ	アジア等
株式会社カン喜	冷凍かき・かきフライ・殻付かきグラタン等	台湾・香港・タイ・EU等
株式会社永野商店	フグミガキ・フグ白子	シンガポール・オーストラリア
農水フーズ株式会社	惣菜・清涼飲料水・菓子	中国・香港・イタリア
桑田醤油有限公司	醤油	EU

広島県（11事業者）

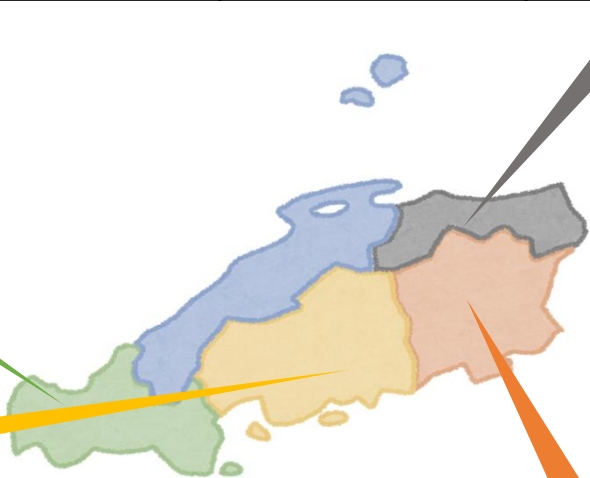
事業者名	品目	輸出先国
JA広島果実連株式会社	かんきつ・ぶどう	台湾・香港等
株式会社マルサン	鶏卵・液卵	香港
オーシャンポイント株式会社	冷凍かき・かきフライ	香港・台湾・タイ
株式会社ますやみそ	味噌・調味食品	台湾・タイ
オタフクソース株式会社	味噌・調味食品	米国・イギリス・イタリア・台湾等
センナリ株式会社	食酢・調味酢・ソース	イギリス・台湾・米国・フランス
寺岡有機醸造株式会社	醤油・醤油加工品	韓国・中国・米国・イギリス・フランス等
HIROSHIMA Mitsu Bay Oyster協議会	牡蠣	台湾・シンガポール等
広島県備後福山食品輸出協議会	かき醤油・ドレッシング・麺類・豆菓子	米国・チェコ・ドイツ・中国・台湾等
株式会社福山地方卸売市場	水産物・青果物	マレーシア・香港・台湾・タイ
岡本醤油醸造場株式会社	醤油	スイス・イギリス・フランス等

鳥取県（2事業者）

事業者名	品目	輸出先国
白バラ牛乳香港輸出プロジェクトコンソーシアム	チルド牛乳・乳製品	香港
チーム鳥取・インド輸出蔵元会	日本酒・リキュール	インド

岡山県（6事業者）

事業者名	品目	輸出先国
室町酒造株式会社	酒類	米国・中国・香港・EU・シンガポール
江与味製材株式会社	製材	中国・韓国・台湾・ベトナム
ヴィーガンフーズフレンドジャパン	農産加工食品・調理食品	香港・台湾・中国・シンガポール・米国等
全国農業協同組合岡山県本部	コメ	台湾・香港・米国
瀬戸内エリア農林水産物輸出推進協議会	青果物（もも）・農産加工品（果汁ゼリー・果汁ジュース）	台湾・香港
岡山備中ブドウ輸出産地育成協議会	ぶどう・ぶどう加工品	台湾



愛媛県（14事業者）

事業者名	品目	輸出先国
えひめ愛フード推進機構	かんきつ	アジア・カナダ・EU等
愛媛県	水産物（ブリ・マダイ等）	アジア・米国等
辻水産株式会社	水産物（ブリ・マダイ等）	アジア・米国等
秀長水産株式会社		北米・アジア・EU等
株式会社南予ビージョイ 森松水産冷凍株式会社		北米・アジア・EU・中東・中南米
イヨスイ株式会社		北米・中国・韓国
株式会社ヨンキュウ		米国・韓国等
株式会社ダイニチ		米国・香港・タイ等
株式会社宇和島プロジェクト		米国・アジア
朝日共販株式会社	しらす製品	タイ・台湾・米国・香港
愛媛県漁業協同組合	ブリ・タイ	米国・カナダ
森文醸造株式会社	醤油・たれ・つゆ・酢卵等	米国・ドイツ・フランス・スイス・中国等
愛媛県海外販路開拓企業連携体	加工食品（菓子・農産加工品・水産加工品・調味料等）	米国
愛媛かんきつ輸出促進協議会	かんきつ・かんきつ加工品	台湾

香川県（13事業者）

事業者名	品目	輸出先国
木桶仕込み醤油輸出促進コンソーシアム	醤油	米国・EU等
ヤマロク醤油株式会社	醤油	米国・EU等
大平やさい株式会社	レタス類	シンガポール・台湾
香川県漁業協同組合連合会	ぶり	米国・タイ・韓国・シンガポール等
株式会社木村海産	釜揚げしらす等	台湾・韓国・シンガポール等
鎌田醤油株式会社	醤油	米国・中国・韓国・台湾・フランス等
香川県	RTE冷凍麺	米国・カナダ・香港・台湾・シンガポール
石丸製麺株式会社	麺類（麦加工品）	台湾・中国・韓国・香港等
株式会社JA香川県フードサービス	鶏卵	香港
有限会社キウイバードコーポレーション	キウイフルーツ・キウイフルーツ加工品	シンガポール・香港
香川県農業協同組合 アイリスオーヤマ株式会社	パックご飯	タイ
創麺屋株式会社	麺類	香港・中国等
くりや株式会社	米菓子・米加工品	米国・台湾・シンガポール

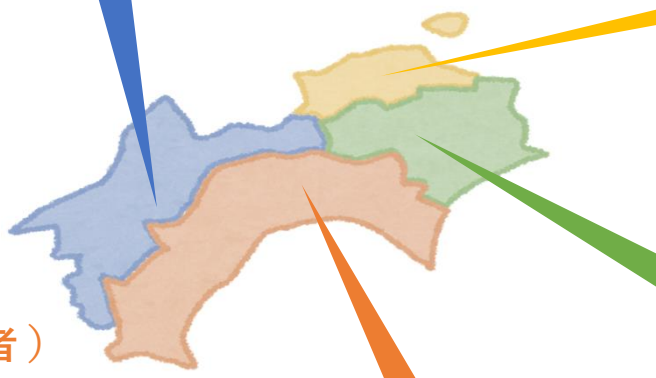
四国地方

徳島県（6事業者）

事業者名	品目	輸出先国
仲野産業株式会社	レンコン等加工食品	米国・台湾・香港・シンガポール・豪州等
株式会社農家ソムリエーズ	かんしょ	台湾・香港・欧州・カナダ等
有限会社東海産	塩辛加工品・鶏肉	香港
株式会社世界市場 ヴェリタス株式会社	いちご	台湾
株式会社リブル	牡蠣	マレーシア・インドネシア等
にし阿波ビーフ輸出コンソーシアム	牛肉	マレーシア・インドネシア・シンガポール・UAE等

高知県（1事業者）

事業者名	品目	輸出先国
サンライズファーム株式会社	ブリ・クロマグロ	台湾・香港・中国・米国等



輸出重点品目

これまで日本から輸出してきた品目は多岐にわたっていましたが、それぞれの品目の輸出額は小さく、「日本ならではの」の強みを持つ製品のシェアが小さい状況でした。

そこで海外で評価される「日本ならではの」の強みをもつ31品目を「輸出重点品目」として設定しました。

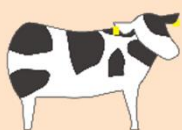
31品目それぞれにターゲットとする国や地域、具体的な輸出目標やそれに向けた課題を明確にし、その実現に向けたさまざまな取り組みを行っています。

コメ・パックご飯・
米粉など



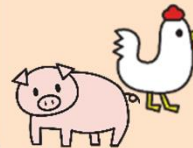
冷めても美味しい等の日本産米は寿司やおにぎり等に向き、日本食の普及とともに拡大が可能。

牛肉



和牛として世界中で認められ、人気が高く、引き続き輸出の伸びに期待。

豚肉、鶏肉



とんかつ、焼き鳥など日本の食文化とあわせて海外の日本ファンにアピールすることで、今後の輸出の伸びに期待。

製材



スギやヒノキは、日本式木造建築だけでなく香りの癒しの効果も人気で、今後の輸出の伸びに期待。

果樹(りんご、ぶどう、もも、かんきつ、かき・



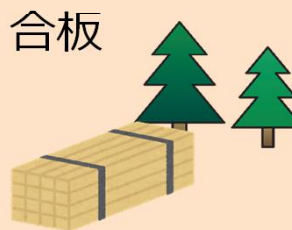
かき加工品、なし)、野菜(いちご)
甘くて美味しく、見た目も良い日本の果実は海外でも人気。

鶏卵



半熟たまごが浸透し、生食できる卵としての品質が評価され、更なる輸出の伸びに期待。

合板



合板の加工・利用技術は、日本の得意分野。日本式木造建築とともに、今後の輸出の伸びに期待。

野菜(かんしょ等)



焼き芋がアジアで大人気。輸出が急増。

牛乳・乳製品



香港や台湾で品質が高評価。アジアを中心に輸出の可能性。

牡蠣・ 牡蠣加工品



身が厚く濃厚な味わいが特徴、アジアでは日本産牡蠣が浸透。今後は生食用の需要が高い欧米などへの販路拡大にも期待。

切り花



外国にはない品種に強み。輸出の伸び率が高い。

菓子



日本独自の発展を遂げ、他国にはない独創性。バラエティ豊かな商品とコンテンツの普及とともに海外で人気。

ぶり



脂がのっている日本独自の魚種。近年、米国等への輸出額が増加。

たい



縁起のよい赤色は中華圏でも好まれる。活魚輸出の増加に期待。

ホタテ貝



高品質な日本産ホタテ貝は世界で高く評価。水産物では輸出額ナンバーワン。

真珠



真珠養殖は日本発祥。日本の生産・加工技術が国際的に高評価。

清涼飲料水



緑茶飲料など日本の味が人気となり、伸び率が高い。

茶



健康志向の高まりと日本文化の浸透とともに欧米を中心にせん茶、抹茶が普及。

ソース混合 調味料



カレールウなど日本食の普及とともに日本を代表する味に成長。

味噌・醤油



日本が誇る発酵食品。和食文化の浸透とともに欧米・アジア地域で人気も上昇。

清酒 (日本酒)



「S A K E」は日本食のみならず各国の料理に合う食中酒等として世界中で認知が拡大中。

ウイスキー



日本産品の品質が世界中でブランドとして定着。

本格焼酎・泡盛



原料の特徴を残すユニークな蒸留酒としての評価があり、今後の輸出拡大に期待。

錦鯉



日本文化の象徴としてアジア、欧州を中心に海外で人気。

令和6年度 中国四国地域の主な農林水産物・食品の輸出品目と輸出先

山口県

品目名	輸出先	(千円) 輸出額
水産加工品	台湾、シンガポール、ベトナム、米国、EU等	723,576
和牛等		

※やまぐちの農林水産物等輸出推進会議調べ
※ぶちうまエクスポートー実績

愛媛県

品目名	輸出先	(千円) 輸出額	輸出力
温州みかん	香港ほか 6国・地域	62,714	119.3 t
中晩柑	香港ほか 7国・地域	59,131	62.0 t
柿	香港ほか 3国・地域	1,176	1.66 t
ブルーベリー	台湾ほか 3国・地域	1,725	0.66 t
キウイフルーツ	香港ほか 4国・地域	3,004	4.8 t

※ えひめ愛フード推進機構調べ

加工食品	シンガポール、中国ほか9国・地域	330,420
林産物	カナダ、韓国ほか3国・地域	277,158
水産物	中国ほか6国・地域	3,510,686

※ 愛のくくえひめ営業本部調べ

高知県

品目名	輸出先	(千円) 輸出額
ゆず（果汁含）	フランス、米国、オーストラリア等	883,673
酒類	米国、中国、韓国等	624,128
水産物（加工品除く）	ベトナム、香港、米国等	553,607
その他加工品等	シンガポール、マレーシア、台湾等	970,255

※ ジェトロ高知・高知県 貿易実態調査

広島県

品目名	輸出先	(千円) 輸出額	輸出力
ぶどう	香港・台湾	472	0.4 t
なし	香港、台湾、シンガポール	1,942	3.7 t
柑橘（レモン）	マレーシア、シンガポール	635	1.4 t
柑橘（はるか）	香港	400	1.0 t
鶏卵	香港	838,485	2,834 t
日本酒	フランス等	234,000	234 kL
牡蠣	香港、台湾等	1,964,000	1,560 t

※ 日本酒は令和5年1月～12月のデータ、牡蠣は令和5年7月～令和6年6月の実績データ（おき身ベース）
※ 広島県調べ

島根県

品目名	輸出先	(千円) 輸出額
加工食品（茶、酒、海産物加工等）	米国、韓国、台湾等	2,744,520
花き（牡丹苗、芍薬等）	オランダ、台湾等	15,351
農産物	台湾、香港、フランス等	58,514
うち米		2,724
野菜（乾燥野菜、エディブルフラワー等）		13,593
果樹（ぶどう、柿等）		42,197
畜産物	香港、シンガポール等	298,722
水産物（冷凍魚、動物、鮮魚等）	ベトナム、タイ、中国等	408,313
木材及び木材加工品	中国、韓国、メキシコ等	97,862

※島根県調べ
※令和6年1月～12月のデータを集計
※各品目の内訳は島根県HP参照

鳥取県

品目名	輸出先	(百万円) 輸出額	輸出力
日本なし	主に台湾、香港、米国	150	182 t
柿	主にタイ	4	8 t
スイカ	香港	10	31 t
和牛	台湾、香港、米国等	166	26 t
乳製品	香港、韓国、マカオ等	53	—
日本酒	米国、ロシア、中国等	148	—
加工食品（菓子等）	米国、中国、韓国等	682	—

※ 鳥取県実態調査に回答があったもののみ

岡山県

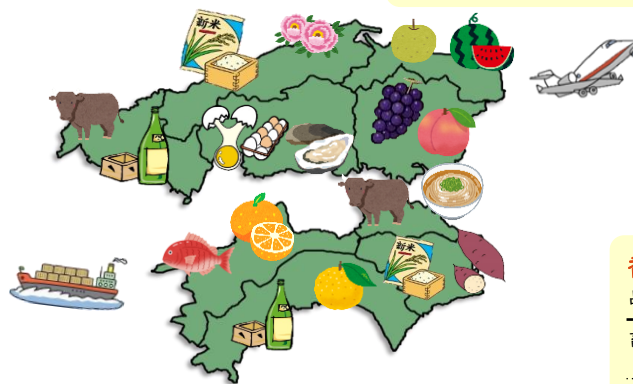
品目名	輸出先	(千円) 輸出額	輸出力
もも	台湾、香港等	41,415	24 t
ぶどう	台湾、香港等	1,089,789	465 t
木材（ヒノキ）	韓国、中国等	485,075	8,336 m³

※ 岡山県調べ

香川県

品目名	輸出先	(千円) 輸出額
畜産物（オリーブ牛、鶏卵等）	米国、香港等	269,776
青果物（いちご、かんしょ、レタス等）	香港、シンガポール、タイ等	134,220
加工食品（うどん、調味料、日本酒等）	米国・台湾等	98,070
その他（盆栽、オリーブハマチ等）	EU、香港等	29,866

※香川県 県産品振興課調べ
（成約・出荷等に香川県が関与したもの）



徳島県

品目名	輸出先	(千円) 輸出額
農畜水産物	マレーシア、香港等	3,328,148
木材・木材加工品	米国、ドイツ	588,355
加工食品	EU、イギリス	1,077,570

※ 徳島県調べ

注：本資料は、県及びJ A等の協力により把握した主な農林水産物・食品の輸出額・輸出力であり、各県の状況を網羅したものではない。

輸出拡大等による「海外から稼ぐ力」の強化

- 農林水産物・食品の輸出拡大を加速すると共に、食品産業の海外展開、インバウンドによる食関連消費の拡大を連携して推進
- これらの相乗効果を通じて、農林水産業・食品産業の「海外から稼ぐ力」を強化（地域の活性化に貢献）

農林水産物・食品の輸出額
【現状】1.5兆円（2024年）→【目標】5兆円（2030年）

農林水産物・食品の 輸出拡大

現地で用いる原材料
の輸出をけん引

日本食・食文化
の現地での浸透

「本場」の食体験を通じ、
日本食のファンに

ECサイト・現地スーパー等での
食体験を通じ、訪日意欲を喚起

食品産業の 海外展開

食品産業の海外展開による収益額
【現状】1.7兆円（2023年）→【目標】3兆円（2030年）

現地の日本食レストラン等での
食体験を通じ、訪日意欲を喚起

「本場」の食体験を通じ、
日本食を身近に楽しむ

インバウンドによる 食関連消費の拡大

インバウンドによる食関連消費額
【現状】2.3兆円（2024年）→【目標】4.5兆円（2030年）

農林水産物・食品の輸出拡大実行戦略

- 人口減少に伴う国内需要の減少が見込まれる中、生産基盤を強化し、食料安全保障を確保するため、成長する**海外の食市場**を取りこむことが重要。
- このため、**農林水産物・食品の輸出拡大**に加え、**食品産業の海外展開**、**インバウンドによる食関連消費の拡大**に向けた施策を強化し、輸出拡大との相乗効果を通じて**海外から稼ぐ力**を強化するための戦略を策定（令和7年5月最終改訂）

1. 農林水産物・食品の輸出拡大（2030年5兆円）

①日本の強みを最大限に発揮するための取組

- 海外で評価される強みがある31の**輸出重点品目**、**ターゲット国・地域**について**輸出目標を設定**
- **新市場の開拓**、輸出先の**多角化**
- 地理的表示（GI）やコンテンツの活用により、**高付加価値化**
- **優良品種**を守り、新品種を育成・普及を進めるための**法制度を検討**

②マーケットインの発想で輸出にチャレンジする事業者の支援

- **マーケットインの発想※**に基づき低コストの生産等ができる**大規模輸出産地**の育成・展開
- 国内から現地まで一貫してつなぐ**戦略的なサプライチェーン**を構築し、横展開

〔※ 海外市場で求められるスペック（量・価格・品質・規格・認証）の産品を専門的・継続的に生産販売しようとするもの。〕

③政府一体となった輸出の障害の克服

- 輸出先国・地域における**輸入規制の撤廃・緩和**に向けて政府一体となった**協議を実施**
- 我が国の強みである、優れた品種や技術、特有の食文化等の**知的財産を守り「稼ぐ」**に変えるための**知的財産対策の強化**

2. 食品産業の海外展開（2030年3兆円）

- 海外現地の**専門家**による規制や税務対応の支援、**コールドチェーン**構築の推進

3. インバウンドによる食関連消費の拡大（2030年4.5兆円）

- 地域の食材や歴史・文化を**ストーリー**にして**旅マエ・旅ナカ・旅アト**で効果的に外国人にアプローチ